

Tomoyoshi Date – Sounds Of A Tired City – Questions

How did you first get in touch with music? What inspired you to start experiencing with music?

明確には覚えていませんが、Beatles の Yesterday を聞いた時に曲を選んで音楽を流すということをはじめた記憶があります。それから Beatles のコピーバンドをやるようになって、Eddie Cochran とかのレコードを聞くようになって古いロカビリーをよく演奏していました。コード進行が簡単だったから、技術よりも音楽自体に集中して演奏出来ることも魅力の一つでした。その後大学受験の浪人時代に新聞奨学生をしていたのですが、そこにジャズの専門家がいて、いろいろ教えてもらった中に阿部薫がいました。実はその人は「阿部薫覚書」という本も出していた専門家で、彼の Last Date という Eric Dolphy のアルバムと同タイトルのアルバムを最初に聞いた時に初めて音楽でトリップをした時のことをまだ鮮明に覚えています。僕のそれまでの音楽の概念を変えました。そこから音楽における旋律よりも音の間と、音そのものを大切にするようになりました。大学ではアルトサクソでジャズを少しやっていましたが、楽譜がつまらなくなって即興演奏ばかりをするようになりました。

Japanese ambient music is considered to be special to an almost irreproducible point. What do you think it makes it so different, so ‘authentic Japanese’?

僕はブラジルで生まれて、精神形成に重要と言われている最初の3年はブラジルにいたので少し典型的な日本人ではないと思いますが、アンビエントと日本の関係というのは確かに特殊なものがあると思っています。

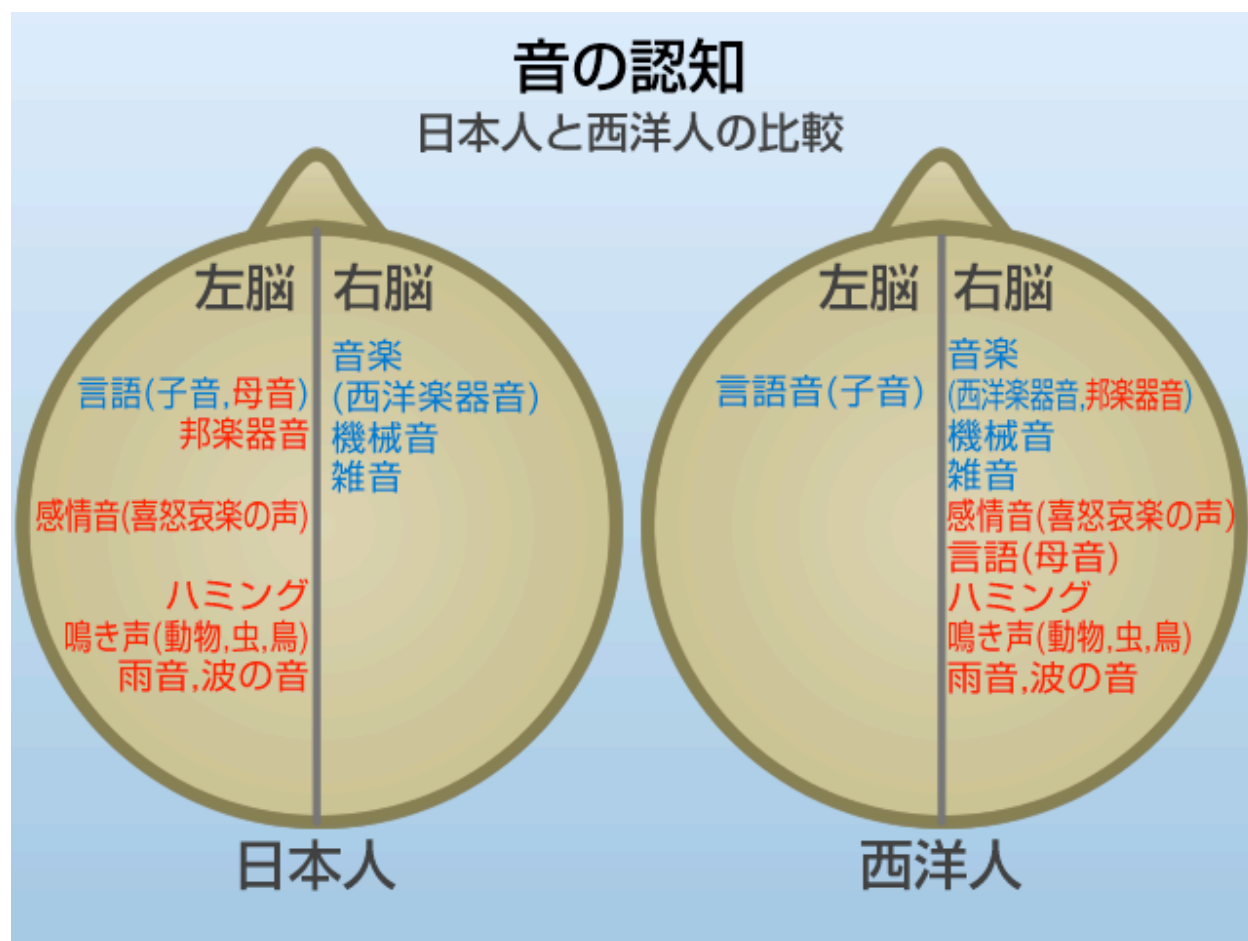
まず、Eric Satie や John Cage, Brian Eno といった人々が東洋思想、特に禅の思想に影響を受けていることから分かるように、アンビエントと東洋思想の関係は非常に強いということ。そして、アンビエント・ミュージックは欧米文化の中から生まれ、日本に逆輸入されたということはとても大きな意味を持っています。

東洋思想とアンビエントの関係だけであれば、日本よりも中国やインドの方が東洋思想は根付いているので、日本は劣るでしょう。ところが、日本の僕らの年代は文化的に西洋と東洋の中間に位置しています。アンビエント・ミュージックは西洋文化の中で発展した東洋思想であり、そういった意味では日本で発達しやすい背景があったのではないかと思います。

また日本人の脳は言語的な背景（全ての子音の後に必ず母音を伴うこと、仮名と漢字があることなど）から、音に関する認識部位が西洋人と異なることが科学的に分かっています。通常、左脳は理性、右脳は感性ですが、日本人とポリネシアの一部の民族だけ

は左脳で理性と感性を扱うハイブリッドな脳を持っていて、特に自然の音は母音の成分が含まれているために日本人は左脳で感じるため、単なる音としてではなく、理性とつなげて考えるという特性があります。

そういった構造のせいか、日本にはニーチェにしても、メルロ=ポンティ、マルクスにしても「誰でも分かる〇〇」というような入門書が無数にあり、これは欧米では見られないことだと聞いています。このように日本人はどんなものでも分け隔てなく、良いものをみんなと共有したいと思う性質があって、そういうことも、音楽に興味のない人も含めてその場にいる全ての人の背景にあれるアンビエント・ミュージックという音楽の「在り方」自体も、シャイな日本人の性質に合っているのではないのでしょうか。



このことは医学においても同じで、今世界中で最も西洋医学と東洋医学が平行して発展しうる国は日本以外にはありません。不思議なことはドイツという国と日本の関係はとても似ていて、音楽もそうですし、医学においても欧米で一番東洋医学が発達しているのはドイツだと聞いています。

You're living in Tokyo, in what way do you think that influences your way of creation? How do you think your music would sound if you would suddenly move to Europe?

東京にいと、世界中のどこの国の料理でも食べられるし、今は減りましたが CD 屋もレコード屋も世界一多かった場所でした。これは良い面もありますが、逆に場所が多すぎて、コミュニティが発達しないという面もあります。音楽家にしても、お互いに知ってはいるけど滅多に会わないという関係がたくさんあるので、もう少し特定の場所が限られていて、コミュニティが形成されやすい状況があれば発展の仕方も違うのではないかとよく思います。

住む場所としての東京は、狭くて密集している割に、近所付き合いというものがほとんどなく、音楽や教育にとってはあまり良くない場所だと僕は思っています。あと数年したら東京から1時間ぐらいの実家に家族で引っ越します。ただ、東京は街の入れ替わりが激しいので、その変化を楽しめれば良いところかもしれませんが、アンビエントを制作するには少し慌ただしいです。

ヨーロッパに一時的に住むことは、大好きな憧れの場所ですから、まだ一つの夢としてはありますが、今一番住んでみたい国はインドです。世界三大医学の一つアーユルヴェーダ医学を学びたいからです。医学にしても音楽にしてもヨーロッパに住んだところで、あまり新しい刺激的な体験がないんじゃないかなとも思っています。既存の音楽を深めて行くには良いかもしれません。

What is your experience of releasing music from Japan? Do you find it harder to get noticed/heard due to the geographic/language barrier?

うーん、歌を歌っていた時は常に歌詞を何語にするか迷っていたけど、リリースに関しては特に感じていません。海外の音楽友達と母国語で会話できないのは少し残念なところがありますが、その反面、Melodia をやっているアルゼンチンの Federico Durand とは、生まれた場所も年も近いのに、会話はお互いの母国語でないということが、音楽においても良い方向で影響していることを感じました。HomeNormal から12月25日に出るアルバムは、僕も彼も普段はギターを弾いたりしないのに、彼と二人だとお互いにギターを弾くのです。最初の曲は僕が3年ぶりぐらいにギターを持って、しかも二人とも何の打ち合わせもなく即興で弾いた野外での一発録音だったので、すごく下手ですが、そういう技術とは全く別の音楽的なものがあの瞬間の中には入っています。最初はいろいろエフェクトをかけた曲を作ったのですが、最終的に録音したままのものをリリース

しました。そういった技術を気にしないで音楽を共有できるというのは、お互いに母国語でない言葉で文法とかを全くきにならないコミュニケーションをしていたから音楽の中でも方法論から解放されて音楽を音楽らしく楽しめたのだと思っています。これは面白い体験でした。

Ambient music is often times related to nature. What is your personal relationship with nature?

これは僕にとって生涯に渡るテーマです。もうすぐ、身体と精神と音楽について西洋医学・東洋医学・アンビエントミュージックという視点から書いた本を出しますが、その本の中で一貫していることは、「自然への畏敬の念」を取り戻そうということです。アンビエントだけでなく、芸術という概念は産業革命の頃に工業化に拮抗する形で発生しました。工業化は生産物の均質化を促進し、生物として最も重要な「種の多様性」を阻害していきます。芸術家たちはその危険性を本能的に感じ、作品にしてきたと思います。

人間には自然の力（*Physis*）によって生じたものを「加工する」能力はあっても、「生成する」力はありません。音楽も *Physis* によって生じた音を「加工する」力はあるけれども、「生じさせる」力はありません。これはデジタルとアナログの関係であり、デジタル技術はアナログを模倣して発展したものではありませんが、アナログの音とデジタルの音にはまだまだ差があります。同じことが自然を利用した東洋医学と科学の力を利用した西洋医学にも言えます。西洋医学は痛みや不眠を消すような「対症療法」はできても、その根本治療は出来ません。元気や食欲といったエネルギーを生じさせるには自然の力を利用することが不可欠です。現代病の多くは自然のリズムとのズレから生じています。ですからその治療には自然のリズムを人間に取り戻す医療や芸術が必要になってくるのです。そうは言っても、症状はつらいものですから、西洋医学の対症療法を適切に使うことも重要です。眠れないでいるよりは睡眠薬を使ってでも眠ることの方が健康にとって良いこともあります。大切なことは双方の医学を適切に用いることで、音楽においても医療においても「生じさせる」力と「加工する」力を適切に併用することが、僕の医療と音楽において大切にしていることです。

私たちが今直面している問題は、そういった文明を利用することの規模を考え直して行くということです。自然を顧みない行き過ぎた文明がもたらす悲劇を私たち日本人は2011年3月11日に体験しました。こういった社会の是正は国などの上部構造を変えようとしてもそれは実現しません。医療における患者さんの認識を変えることや、音楽を通して、僕は社会に対してメッセージを発信しています。

近年アンビエント・ミュージックの需要が高まって来たことは、その音楽が自然と関係しているというよりは、工業的な騒音に包まれた私たちの日常生活の中でそれを打ち

消すような音楽が必要になったために、生活の背後で常に流しておけるアンビエント・ミュージックが今必要とされて来ているのだと僕は考えています。

How do you achieve that immense level of calmness in your music? Do you have any rituals or methods that help you compose?

古代インドの思想家たちは、あらゆる感情の中で最も大切なものは「落ち着き」であるということを書いていました。私たちの快樂や苦悩もこの「落ち着き」によって正しい選択が行われて行きます。「落ち着き」は様々な怒りを鎮めます。音楽において僕が大切にしていることは準備です。自宅のスタジオで録音する時には、いつも演奏前に3時間の準備をするように心がけています。音づくりから演奏方法の練習といった時間で、去年はそれを出来る限り毎日やって100回録音するというのをやりました。ただ、それは予想通り音源にはできませんでしたが。。。

瞑想もよくやります。ライブ演奏の時は演奏を始める前に30秒程度の静寂を作ってから始めるようにしています。あと、共演する時は、演奏前に同じ漢方薬をみんなで飲みます。それによって身体的にも共演者とリズムが同期するからです。

How did you arrive at your piano style? It is quite unlike anyone else's in both sound and performance. Who has inspired you on this instrument?

音楽を演奏する時に僕が心がけていることは、舞い降りてくるインスピレーションをそのまま何も考えずに音に変換することです。僕は演奏をしている時、音楽に降りてくる靈性の器としてただ「ある」ことを心がけています。そのために最善の準備を尽くしているのです。ピアノは僕にとって自分の感情が最も反映しやすい楽器です。高校生の頃 John Lennon の Imagine を弾くために、一時的に楽譜を学んで4、5年は楽譜が読めましたが、今はドの音がどこなのかも分からないほど、全く楽譜が読めなくなってしまいました。楽譜を読める人のピアノと、読めない人のピアノには明らかな差があり、どちらが素晴らしいとは思いませんが、僕は読めない人のピアノでも良いと思っています。どちらにもそれなりの美しさを表現できる可能性が秘められています。影響を与えたピアニストと言えば Glenn Gould だと思います。彼の音は感情と直結しています。

You have studied medicine and you have recently opened your first ambient oriental medical clinic. How is this practice different from a traditional oriental clinic and what should we expect if we visit you as potential patients?

対症療法である西洋医学と、根本治療である東洋医学を併用しています。処方する薬の割合は1：9で漢方薬の方が多いです。この比率が現代における医療の適切なバランスだと考えていて、その比率は双方の医学の歴史の長さと同じものです。東洋医学は4000年前から始まり、西洋医学は400年前から始まりました。

また、食事や生活環境(音や光・香)の指導・提案も行っています。現在の普通の病院ではそういった医療は時間がかかるため経済的に実現することは難しい現状があります。僕の病院はおそらく日本で一番小さい診療所で、一番良い音響システム(Tannoy の StirlingTW と Sonihouse のスピーカー、それと小松音響研究所の真空管アンプが3台あります)がある診療所です。病院自体の規模を可能な限り小さくすることで経営を可能にしようとしています。診察室は2畳半(9㎡程度)という狭さで、これは千利休という茶人が茶室に革命を起こした時の広さと同じです。「露草(つゆくさ)医院」という名前は茶道の哲学用語である「露地草庵」に由来しています。

診療科目は内科・精神科・アレルギー科・皮膚科などで、直面しているつらい症状を西洋医学や認知行動療法で取りながら、根本治療を東洋医学と食事・環境改善と共に行っています。ほとんどの方が西洋薬を必要としなくなります。

In the last years you have only been working in groups as Between (with Corey Fuller, Marcus Fischer, Simon Scott and Taylor Deupree), Illuha (with Corey Fuller), Melodía (with Federico Durand) and Opitope (with Chihei Hatakeyama). What is it that you find so fascinating about collaborations that in a way you put much more effort into them than your solo work?

Toshimaru Nakamura + KenIkeda(from Baskaru 2014)もあります！

確かに作品としてはコラボレーションをたくさん出していますが、音楽を作っている時間はソロの方が圧倒的に長いです。ただ僕は優柔不断なのでなかなか自分の作品を完成出来ないのです。コラボレーションは、録音できる時間も限られていますし、録音したもので完成させなければならないというタイムリミットのようなものがあります。ソロではまだ良くなる、まだ良くなると思って作っているうちに新しい録音がしたくなってしまうのです。だから、コラボレーションの10倍以上はある膨大な録音がありますが、何かタイムリミットがなければソロ作品は出せないのです。1枚目のアルバムは、7年間かけて作りました。2枚目の作品は娘の誕生日までに作らなきゃという目標があったので出来ましたが、結局リリースするまでにはそれから1年かかってしまいました。今年の9月30日に二人目の娘を授かって、その音楽をこの1年間ずっと作っていて家では妻と娘には聴かせています。それはピアノやシンセサイザー(SequentialCircuit Trak-Six と Yamaha DX-7)ですが、エフェクトもラップトップも使っていないものです。来年の娘の誕生日までにリリース出来ればと思っています。

Is there someone who you would like to collaborate with but due to some reason it just never happened?

僕は90年代から Stephan Mathieu の大ファンで、神様だと思い続けて来ました。Federico Durand も Stephan の大ファンで、二人でヨーロッパをツアーした時に、彼に突然メールをしたんです。「僕らは日本とアルゼンチンからヨーロッパに来ていて、もし

可能だったら是非あなたの家に伺わせてくれないか」と。それで彼の家に泊めてもらいました。彼の家に着くなり、グラモフォンで彼のコレクションを聴かせてくれて、料理を食べさせてもらって、みんなで DJ して、、、と、生涯最高の一日でした。その縁があって日本に彼を招待してツアーをしました。複数の人数での彼とのセッションは何度かやりましたが、まだ僕は彼とのデュオをやっていません。あまりに恐れ多くてまだお願い出来ていないのです。彼は音楽だけでなく、人格も本当に神様のような人でした。どんなに忙しく、疲れていても感情を乱すことなくいつも紳士なのです。僕がもう少し成長したら、いつか彼とデュオで作品を作らせてもらえたらと思っています。

What are you working on these days? What are your future plans music-wise?

今は二番目の娘のアルバムの作成と、診療所で流す音楽の作成をしています。僕の診療所の待合室には2系統のオーディオシステムがあり、全く違う音楽をランダムに流すことで、その組み合わせが常に変化し、その時その場でしか聴けない音楽がそこにある。という状況を作ろうとしています。今は1系統からアンビエント・ミュージックを、もう1系統からフィールドレコーディングを流していますが、それをよりミニマルなものにして、双方をアンビエント・ミュージックにする方法を考えながら作曲をしています。診察室内にもオーディオシステムがあるので、その3系統がハーモニーを作る可能性のある個々の音源を今作っています。

あと、MUI という3人のアンビエント・生演奏バンドを始めました。

今年4月の Stephan Mathieu, Taylor Deupree, Federico Durand の来日時の音源がデジタルリリースされます。 <https://kualauktable.limitedrun.com/> 12月25日 Melodia の2nd が HomeNormal から。 <https://homenormal.bandcamp.com/album/diario-de-viaje>

来年の1月に坂本龍一さんと Taylor Deupree、それと ILLUHA という4人での演奏が12kより発売予定です。

あと、中村としまるさんとケン・イケダさんとのトリオの2枚目が完成しています。 Federico Durand + Opitope もありますし、Melodia の3枚目も録音は終わっています。あと Asuna + Opitope ももう少しで完成します。なんとかソロの3枚目も9月30日までには出したいです。

Who do you think the most impressive ambient artists are these days? Explain why you like them.

例えば、Stephan Mathieu は素晴らしい音楽を作り続けていますが、彼はアンビエント・ミュージシャンではないと僕は思っています。確認はしていませんが、彼自身もきっとそういう風には思っていないのではないかと思います。多くのドローン・ミュージック

ックはアンビエントではありません。Celer の作品のいくつかはアンビエントだと思いました。

Federico Durand はアンビエント・ミュージシャンでしょう。彼の音楽は今も昔も好きで、特に spekk から出ている2枚は素晴らしい。でも Melodia はアンビエントではありません。普通は友達の音楽って、よく知り過ぎていてあんまり聴きたいとは思わないのですが、彼の音楽はこれだけ仲が良くなってもしょっちゅう聴けるのです。それは彼の音楽が本当の意味でのアンビエント・ミュージックであるからなのではないかと思っています。人間的な人柄もそうなのですが、彼は非常にアンビエントな人です。

Susanna and Magical Orchestra は2、3年前に知ったのですが、とてもよく聴いていて僕の診療所でもよく聴いています。あれは上質なアンビエントですね。

When you're not working with and listening to ambient, what other types of music do you prefer?

最近では Glenn Gould とか Toru Takemitsu をよく聴いています。Morton Feldman, Arvo Part などの現代音楽が多いですかね。あと、家族と過ごしている時は歌ものが多いです。Mark Hollis、Chet Baker、Maria Callas、Edit Piaf、Juana Molina、Stereo Lab、Joyce なんかですね。娘と踊る時は Mouse on mars、Kraftwerk をよく流します。

If you would have to choose, what would you pick as your favourite album cover?

Federico の White Paddy Mountain からの新作は久々に驚いたジャケットでした。尊敬するアンビエント・イラストレーター Satoshi Ogawa の作品です。Spekk の作品はどれも素晴らしいですね。あと、古いものだと Alvo Part の Alina。Toshimaru Nakamura の Egret。

あと、手前味噌ですが、今度出る坂本龍一さんとのアルバム Perpeptual のジャケットも良いですよ。まだ現物は見ていませんが。

Who would you like to read an interview with on Sounds Of A Tired City?

原発推進派の人たち、モンサントの会社員、唯物論者、あとは音楽を自分自身の能力で作りに出していると考えている人。